

東芝、株主総会2段階で

不適切会計、7月に調査報告

来月25日、暫定人事 決算報告は9月に

東芝は29日、不適切会計問題の第三者委員会による調査が長引くため、株主総会を2段階で開催すると発表した。6月25日の定時株主総会では2015年3月期決算報告は見送り、取締役選任(留任)などを決議する。第三者委の調査報告がまとまるのは7月中旬メドという。調査結果を受けて決算を確定した後、臨時総会を開くという異例の手順になる。(関連記事11面に)

29日夜に会見した田中久雄社長は「株主はじめ資本市場関係者のみなさまに多大なご迷惑、ご心配をかけ、深くおわび申し上げます」などと陳謝した。

3月末時点の株主を対象に開く6月の定時総会では、決算報告できない代わりに不適切会計問題について最大限可能な範囲で報告する。取締役の選任は調査が終わるまでの暫定的な意味合いで、報告書が出た後に改めて

取締役の候補者を選び、臨時総会で判断を仰ぐ。臨時総会に出席できるのは6月末時点の株主とする。

5月15日に立ち上げた第三者委は、インフラ関連だけでなく半導体、パソコン、テレビ事業も含め、会計処理の妥当性などを約2カ月間かけて調べる。7月中旬に報告書をまとめ、東芝はその影響額を見極めて過去の決算修正と15年3月期決算を発表する。

前期分の有価証券報告書の提出期限は6月末だが間に合わないため、8月末への延長を申請して関東財務局の承認を受けた。8月中旬に提出すれば上場廃止の恐れはひとまずなくなる。一連の手続きを経て「9月下旬までに臨時総会を開く」(田中社長)としている。

東芝の不適切会計問題は、第三者委員会による調査・原因究明とともに経営責任をどう取るのが今後の焦点となる。田中久雄社長は29日の記者会見で9月開催予定の臨時株主総会までに経営責任について判断し、必要に応じて役員の名簿を見直す考えを示した。原子力や半導体など、カンパニー制の良さを生かしながら本社がどのように現場を管理するかも課題となりそうだ。(1面参照)

「経営の責任は非常に重く受け止めている。7月中旬の第三者委の調査結果を受けてどのような対応をしていくのか、真摯に検討したい」。田中社長は29日、自身や過去の経営陣の責任について明言を避けた。一方、取締役と執行役の報酬を一部返上していることを正式に発表した。

6月25日の定時株主総会を挟み、現在の経営体制で第三者委の調査に全面協力する。調査には「(過去の経営陣など)すべての関係者が誠実に対応する」と話した。ただ600社弱の連結子会社の会計処理については自社調査を進めるとしており、客観性が保てなく

企業統治のあり方も問われる。田中社長は「内部統制が十分でなかった」と認めた。経営陣から予算達成の圧力が強く、各部門の独立性が高いため、現場が不適切会計に陥りやすい面があった。

企業不祥事に詳しい会計士は「本社の監視が行き届かなかった」とみる。インフラ事業では工事原価の見直しを現場の裁量に任せていた。インフラ受注の利益見通しを経営陣に報告させるなど、管理体制の見直しに動いているが、抜本的な解決につながるかは不透明だ。

2015年3月期の期末配当は取りやめたが、新たな基準日の株主には配当を検討する。15年3月期の有価証券報告書の提出期限も6月末から8月末に延長した。1カ月月の延長は前例があるが2カ月は極めて異例だ。株主や市場の信頼を取り戻すには、過去のうみを出し切る覚悟が問われる。

田中社長 主な発言

田中久雄社長の主な発言は次の通り。

「2015年3月期決算はいつ発表するか。7月中旬の第三者委員会調査結果をもとに迅速に数字を出したい。決算などの数字をまとめるには時間が必要だ」

「配当はどうか。3月末基準の株主に大変申し訳なく思うが無配になる。14年度決算がまとまった後、新たに基準日を設定し、配当について決定次第開示する」

「子会社の米ウエスチングハウスで不適切な会計処理があったのか。ウエスチングハウス

は長期の工事で進捗度合いに応じて売上高や費用を見積もる『工事進行基準』の調査対象の中には入っていた。判明している不適切な処理9件の中には入っていない」

「さらなる調査対象の拡大はないのか。テレビ、半導体、パソコン以外では大きな懸念はないと考えている」

「報告書が出た後、経営責任はどうか。業績見直しを未定にし、3月末時点での配当を無配にした経営責任を非常に重く受け止めている。7月中旬の報告書の内容に基づいて検討し、臨時の株主総会までに判断を下す」

調査の長期化を踏まえ、異例の日程に

4月3日	不適切会計問題が発覚、特別調査委を設置
5月8日	15年3月期の業績予想を取り下げ、期末無配を発表
15日	第三者委を立ち上げ
6月25日	3月末の株主を対象に定時株主総会を開催(取締役の選任など)
30日	臨時株主総会に出る株主を確定する基準日
7月中旬	第三者委が調査報告
8月	14年3月期までの決算の修正と15年3月期決算を発表
8月	15年3月期の有価証券報告書を提出
9月中	臨時株主総会を開催(決算報告、新たな取締役を選任)

「過去の経営陣など」すべての関係者が誠実に対応する」と話した。ただ600社弱の連結子会社の会計処理については自社調査を進めるとしており、客観性が保てなく

田中社長 主な発言

田中久雄社長の主な発言は次の通り。

「2015年3月期決算はいつ発表するか。7月中旬の第三者委員会調査結果をもとに迅速に数字を出したい。決算などの数字をまとめるには時間が必要だ」

「配当はどうか。3月末基準の株主に大変申し訳なく思うが無配になる。14年度決算がまとまった後、新たに基準日を設定し、配当について決定次第開示する」

「子会社の米ウエスチングハウスで不適切な会計処理があったのか。ウエスチングハウス

東芝、株主総会2段階で 経営責任 今後の焦点に

田中社長 主な発言

田中久雄社長の主な発言は次の通り。

「2015年3月期決算はいつ発表するか。7月中旬の第三者委員会調査結果をもとに迅速に数字を出したい。決算などの数字をまとめるには時間が必要だ」

「配当はどうか。3月末基準の株主に大変申し訳なく思うが無配になる。14年度決算がまとまった後、新たに基準日を設定し、配当について決定次第開示する」

「子会社の米ウエスチングハウスで不適切な会計処理があったのか。ウエスチングハウス

は長期の工事で進捗度合いに応じて売上高や費用を見積もる『工事進行基準』の調査対象の中には入っていた。判明している不適切な処理9件の中には入っていない」

「さらなる調査対象の拡大はないのか。テレビ、半導体、パソコン以外では大きな懸念はないと考えている」

「報告書が出た後、経営責任はどうか。業績見直しを未定にし、3月末時点での配当を無配にした経営責任を非常に重く受け止めている。7月中旬の報告書の内容に基づいて検討し、臨時の株主総会までに判断を下す」

調査の長期化を踏まえ、異例の日程に

4月3日	不適切会計問題が発覚、特別調査委を設置
5月8日	15年3月期の業績予想を取り下げ、期末無配を発表
15日	第三者委を立ち上げ
6月25日	3月末の株主を対象に定時株主総会を開催(取締役の選任など)
30日	臨時株主総会に出る株主を確定する基準日
7月中旬	第三者委が調査報告
8月	14年3月期までの決算の修正と15年3月期決算を発表
8月	15年3月期の有価証券報告書を提出
9月中	臨時株主総会を開催(決算報告、新たな取締役を選任)